

清流球磨川が期待する 田中市政の継続



田中信孝人吉市長

2008年9月2日、田中信孝人吉市長は人吉市議会本会議で「川辺川ダム計画そのものを白紙撤回すべき」と表明。その後の蒲島知事の川辺川ダム反対表明に大きな影響を与えました。

その際の「川辺川ダムに関する市長の見解」で、田中市長は以下のように述べられています。

「近年、母なる川、球磨川が今日ほどやせ衰えて、川床の石が累々として現れ、姿をやつした光景を見たことがございません。私は、人吉の球磨川の近くで生まれ育ち、物心ついたときから球磨川に親しんでまいりました。その球磨川をこれか

らの子孫に残す宝物として、流域住民の皆様とともに、球磨川水系の自然環境の保全に取り組み、(中略)川がもたらす、すべての恩恵を一身に受けることができますよう実践行動を起こしていかなければならないと感じておるところでございます」

流域住民が一丸となって川辺川ダムの阻止に立ち上がった背後には、球磨川に建設された既存のダムが、川の姿をまるごと破壊していく様を見続けていたことにあります。この田中市長の見解には、私たち手渡す会と同じような思いが込められています。

そして見解の締めくくりは「子供たちのその子供たちのために、母なる清流球磨川の再生に向け、山と川の恵みを海へとつなげていくためにも、皆様のさらなるご協力をお願いするものでございます」と結んでいます。

私たち手渡す会も、球磨川の再生にむけての取り組みを強化していきます。そのためにも、これからも田中市政が続き、「母なる清流球磨川が輝く」という理念が引き継がれていくことを期待しています。

●2013年11月～2015年2月の出来事

- 13. 11. 14 瀬戸石ダム撤去に向け、県知事に要望書を提出
 - 11. 21 「ダムによらない治水を検討する場」第5回幹事会で、市町村から治水案「懸念」相次ぐ
 - 11. 24 瀬戸石ダム撤去に向け、八代市坂本公民館で集会（110名参加）
- 12. 3 電源開発が瀬戸石ダム水利権更新を国土交通省に申請

- 14. 2. 1 瀬戸石ダム撤去求め八代市厚生会館で集会（400名参加）
 - 2. 12 瀬戸石ダム水利権更新を国土交通省が許可
 - 3. 18 川辺川ダム水没予定地（五木村頭地）に多目的広場ついに着工
 - 4. 24 「ダムによらない治水を検討する場」第10回会合、2年7ヵ月ぶりに開催
 - 7. 22 国交省の調査で川辺川の水質8年連続日本一
 - 8. 8 川辺川ダム代替治水策の住民説明会が始まる
 - 8. 23 第18回川辺川現地調査（相良村体育館200人参加）
 - 12. 19 「ダムによらない治水を検討する場」第11回会合で、蒲島知事が協議終了を提案

- 15. 1. 14 2015年度政府予算案で川辺川ダム関連に4億2700万円計上。河川管理や河川流量の調査などに充てる
 - 2. 3 「ダムによらない治水を検討する場」第12回会合で、新たに実務者レベルの「球磨川治水対策協議会」を設置することを了承

●ダムによらない治水を検討する場が最終会合

2月3日、川辺川ダムの建設中止に伴い国と県、球磨川流域12市町村でつくる「ダムによらない治水を検討する場」が最終会合を開き、当面の代替治水策を了承、6年にわたる協議に区切りを付けました。今後、実務者レベルの新たな協議会で追加対策を練る方針とのことですが、関係機関はスピード感を持って流域の「防災安全度」の向上に尽くすべきです。

「検討の場」は2008年9月に蒲島知事が川辺川ダム計画の白紙撤回を表明したのを受け、「ダムに代わる治水対策を極限まで追求する」との目的で09年1月に発足。これまでに12回の会合を開いてきました。

「検討の場」で国土交通省は、ダムに代わる治水策の「安全度」の低さに繰り返し言及しました。そのような中、田中信孝人吉市長は、ハード整備に偏らない安全対策を主張しました。



検討の場で発言する田中市長 2014.4.24

●手渡す会の今後の取り組みとブログについて

「ダムによらない治水を検討する場」が開催されていた6年間、川辺川ダム建設計画が再び浮上することがないように、手渡す会は関係機関にさまざまな要請活動を行ってきました。そして当面、川辺川ダム計画は持ち上がらないであろうと判断しています。これも会員の皆様のご支援の賜物であると感謝いたします。「検討の場」に関する手渡す会の見解を別紙にまとめていますので、ぜひお読みください。

これからは国、県の動向を見極めながら、手渡す会の最大の目的である「清流を未来に手渡す」ことを活動の大きな柱としていく所存です。

定例会については、これまでの毎週月曜日午後7：30の開催を、今年4月からは第2月曜日午後7：30の月一回の開催といたします。

また定期的に川と流域に関する現地学習会を行い、川の実態を調査、研究していきたいと考えています。活動に関する情報は、ブログ等で紹介いたします。

☆インターネットをご利用の皆様へ

「手渡す会」ブログで、活動等の最新情報をお伝えします。ぜひご覧ください。「手渡す会」で検索してください！

「手渡す会」ホームページ <http://tewatasukai.com/>

「手渡す会」ブログ <http://kawabe1993.exblog.jp/>

●会計報告(2013. 4. 1~2014. 12. 31)

収入の部	金額	備考
繰越金	▲209,471	
年会費・カンパ	1,148,679	グッズの売上、雑収入なども含む
合計	939,208	

支出の部	金額	備考
郵送費	188,570	会報発送、資料発送
交通費	120,000	高速料金、ガソリン代など
事務用品費	21,719	紙代、文具、宛名シール代など
事務所維持費	278,919	家賃、電話など
その他	664,850	研究誌印刷費など
合計	1,274,058	

(収入) 939,208 - (支出) 1,274,058 = ▲334,850

◇「手渡す会」は、皆様方の年会費とご寄付のみで運営しております。年会費払込用紙(一口1000円)を同封させていただきました。今後とも、清流を未来に手渡す活動にご協力いただければ幸いです。よろしく願い申し上げます。

清流球磨川・川辺川を未来に 手渡すためにいまやるべきことは

球磨川は、日本三大急流と言われます。ゆえに、中流域もダム建設に適した地形が多くあり、上流から下流にまで多くのダムが建設されました。

当初、このようなコンクリート建造物は多くの人々に歓迎されました。特に、多目的ダムは「すばらしいものだ」と学校の教科書でも取り上げられ、それをしっかり信じた住民も多くいました。

ところが、ダム完成後の球磨川は大きく姿を変え、多くの人々の考えを一変させました。荒瀬ダム、瀬戸石ダム、市房ダムなどが球磨川に建設されると、それらが水と土石と生物の流れを断ち切り、川の形態も生態も景観も、何もかもがおかしくなりました。さらに、今までに経験したこともない大きな水害に見舞われるようになりました。

流域住民の多くが、ダム建設後の球磨川の異変をしっかりと捉えていたからこそ、川辺川ダムが建設されるとどんなことが起きるか、容易に予想することができたのです。

かつては、球磨川は人々の暮らしの中にもありました。ところが、川にコンクリート建造物ができていく中で、人々は川から引き離されてしまいました。豊かな球磨川を取り戻し、未来に手渡していくために今やらなければならないことは、一人でも多くの人暮らしに川を取り戻していくことです。それこそが手渡す会のこれからの課題です。



撤去工事が進む荒瀬ダム 2015.1.11

編集後記 国がダム建設の根拠としているのが、「基本高水」という考え方です。球磨川では、「人吉で毎秒7000トン（基本高水流量）の洪水が発生するが、毎秒4000トンしか流せない（計画高水流量）ので、毎秒3000トンダム等で調節する必要がある」という考え方です。しかし、このような数値は、国土交通省がダムを建設するために机上で数値合わせした数字でしかありません。そして、計画以上に川の水位が上がり、被害が出ようものならば「想定外の洪水だった」と、責任を逃れるための数字でしかありません。国のこのような考えを改め、想定外の洪水にも対処するには、ハード面ソフト面を合わせた流域の「防災安全度」を上げていくことにこそ取り組むべきです。私たちはこれからも、豊かな球磨川を取り戻し、未来に手渡していくとともに、球磨川・川辺川からこのような新たな治水の考え方を全国に発信していきます。(N.O.)